

第4回みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議 議事録

日 時：令和8年2月10日（火）

9時30分～11時00分

場 所：富山県防災危機管理センター
研修室 3-C

1 挨拶

2 出席者紹介

3 報告

(1) 令和7年度利用促進事業の結果について

- ・今年度実施したアンケート調査、インクルーシブ DAY に関する報告
- ・今年度「富山県インクルーシブ遊具 MAP」に追加した公園の報告

(2) 遊具増設の決定について

- ・新保小学校と連携して行った遊具選定の経緯
- ・増設する遊具の概要（複合遊具、トランポリン）

(3) 遊具増設に伴う周知啓発・広報物の製作について

- ・新保小学校と連携して現在取り組んでいる看板及びチラシ等の製作状況

4 意見交換（事務局からの報告を受けて）

事務局からの一連の報告を受け、意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

■事業全体の取組に対する評価について

- ・これまでの説明を通じて、新保小学校の児童一人ひとりが受け身ではなく、自ら考え、主体的に取り組んできた様子がよく伝わり、非常に感動した。
- ・学校、行政、企業、保護者、地域など、さまざまな立場の人が関与しながら取組みを進めた点は、学校教育の中でもなかなかない事例であり、子どもたちにとって非常に貴重な経験になっていると思う。
- ・子どもたちが考えた内容が、実際に公園の遊具や空間として形になることは、将来にわたって記憶に残る経験になるのではないか。

■遊具増設及び遊具の捉え方について

- ・今回採用された「インクルーシブ・トランポリン」のように、車椅子に乗ったまま利用できる遊具は全国的にも設置事例が少なく、先進的な取組みである。
- ・現在ひろばに設置されている車椅子のまま利用できる遊具は比較的静かな遊びが中

心であったが、今回の遊具は身体を大きく動かすことができ、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめるのではないかと。

- ・トランポリンが1人ずつの利用となる点については当初懸念もあったが、順番を待つことを学ぶこともインクルーシブであるという子どもたちの考えを聞き、その捉え方に納得した。
- ・遊具そのものだけでなく、遊び方や待ち方も含めて検討したことが児童の学びにつながっており、その学びが考案した遊具に反映されている点が、本事業の大きな特徴であると感じた。

■周知啓発・広報のあり方について

- ・インクルーシブ遊具 MAP について、遊具の情報だけでなく、多目的トイレやユニバーサルシートの有無など、トイレに関する情報も掲載されていると、利用する側にとって分かりやすい。
- ・インクルーシブ DAY 等のイベントについては、多くの人を集めることを目的とするのではなく、必要としている子どもや家庭に情報をどのように届けるかが重要であり、周知の方法については引き続き工夫していきたい。
- ・イベント情報等の周知にあたっては、紙媒体だけでなく、Web、SNS、LINE なども活用し、週末のお出かけ情報として自然に目に入る形がよいのではないかと。
- ・同世代の保護者が体験を発信していると、利用のイメージがしやすく、来園につながりやすいと感じる。
- ・今回の取組みは県や新保地域内にとどめず、今後は市町村等、より広い範囲への発信も検討していく必要があるのではないかと。
- ・富山県での取組みは、全国的にも先進的な事例として他県からの注目も集まりつつあり、こうした取組みをより多くの人に知ってもらうためにも、これまでの取組みの内容を記録として整理し、ホームページ等を通じて公表していくことも有効ではないかと。

(看板・チラシ等の表現に関して)

- ・新保小学校と連携して看板やチラシを検討する中で、「障がい」という言葉の使い方について、子どもたちから違和感の声が出ていた。
- ・ルールやマナーに関する看板の製作については、理解できる子どもだけを前提とするのではなく、理解が難しい子どもがいることを前提に、どのように伝えるかを考える必要があると感じた。
- ・看板やチラシの整備を進めていく中で、言葉の選び方や表現について、今後も委員の意見を聞きながら検討を進めていけたらと思う。

■今後の進め方及び会議のあり方について

- ・本会議については、遊具増設等実施後の検証の場として、次年度にもう一度開催する。

5 閉会

以上